

### 中学生の「やりたい」から始まったスポーツダーツ

#### 取組の背景・目的

- ・東大井児童センターは、老朽化による改築を行っていた2年の間は仮施設で運営しており、中高生の利用はほとんどありませんでした。
- ・令和4年にリニューアルオープンし、建物はきれいになったものの、コロナ禍のため区内全児童センターが一時的に休館していたことから、中高生世代の認知度は低く利用は伸び悩んでいました。また、「ティーンズルーム」等、中高生専用の部屋がなく、来館した中高生は屋上のバスケットコートやバンドスタジオを細々と利用するような状況でした。
- そのため、「中高生の居場所となる環境作り」と「コンテンツの充実」が職員間での課題となっていました。
- ・そのような中で、バスケットを目的に来館していた中学生グループから、「雨天時に屋内でダーツをしたい」と提案がありました。どのような形で「声」に応えるか検討していたところ、ダーツライブ社からマシンリースの打診があり、主管課である子ども育成課と連携し、令和6年6月から導入（リース）を開始しました。

#### 取組の概要

- |       |                                                                                                                                         |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| □実施名称 | スポーツダーツ                                                                                                                                 |
| □実施場所 | 品川区 3 館設置<br>東大井児童センター →遊戯室壁面倉庫に収納<br>※利用申込みに応じ壁面倉庫のドアを開け起動<br>平塚児童センター →ティーンズルームにて常時使用可能<br>八潮児童センター →プレイルームにて常時使用可能                   |
| □使用頻度 | ほぼ毎日<br>※利用申込みおよび遊戯室の利用状況を見て調整                                                                                                          |
| □職員体制 | ・初めてスポーツダーツを行う時は、<br>①マシンの使用方法 ②投げ方 ③ゲームのルール について<br>職員からレクチャーし、登録カードを発行します。<br>・学年、学校を越えて利用する中高生の増加に対応するため、子ども同士をつなぐための職員を 1 名配置しています。 |
| □利用対象 | 中高生                                                                                                                                     |
| □事業協力 | (株)ダーツライブ<br>①マシンのリース<br>②月に 2～3 回ティーンズタイムに、スキルアップのアドバイスやマシンのメンテナンス等のため来館                                                               |
| □事業内容 | ①東大井児童センターを利用している中高生による利用<br>②ダーツマシン設置館によるオンライン対戦会の実施                                                                                   |

### 工夫点・留意点

- ・マシンを設置する遊戯室は、不特定多数の利用者が走り回って遊ぶことができる部屋であり、危険を避けるため、当初は「水・木のティーンズタイム（18:00～19:00）」で運用していました。事業を開始してみると予想以上に利用者が大変多かったため、卓球の防球ネットで部屋を仕切り、いつでもダーツを楽しめるようにしました。それにより、ダーツ目当てで来館する中高生がさらに増加しました。
- ・主にチーム対抗で大会を開催し「東大井児童センターチーム」として皆で応援をしたり、励ましあって「仲間」意識が育まれるよう声掛けをしています。また、失敗してもチームとしてカバーしあえる関係づくりをしています。



オンライン大会

ナイスショットにエールを送りあいます

プロによるレッスン会

小学生のあこがれの的

### 取組の効果

- ・学校で友達関係がうまくいかず、時々一人で児童センターを利用していた中3男子が、スポーツダーツを通して学校、学年を越えた人間関係を築くことができ、毎日来館するようになりました。また、職員に学校や家庭、将来のことなどを話すきっかけとなりました。
- ・HPの記載を見て、私立中学校の生徒がダーツを目的に来館するようになりました。
- ・ティーンズルームなど中高生専用の居場所がありませんが、「スポーツダーツ」を通して中高生が集うようになりました。
- ・中高生以上限定でのプレイのため、中高生にとっては特別感があり、さらに小学生にとってはあこがれのスポーツとなっています。
- ・おもちゃではなく、「本物」を体験できることに加え、「プロレッスン会」ではプロから指導してもらえることで、さらにスポーツダーツの魅力を感じることができ、将来のキャリアデザインにもつながりました。

### 課題・今後の展開

- ・児童センターを利用したことのない中高生は、まだまだたくさんいるので「スポーツダーツ」をツールとして児童センターの認知を広め、利用につなげていきます。
- ・「スポーツダーツ」という共通の趣味は、今まで話したことがなかった人ともつながることができる良い機会になっています。
- ・マシンがオンライン対応ということで、品川区内3館だけでなく、都内、都道府県、将来的には海外の中高生とつながれるアイテムとして活用していきたいです。
- ・今後はさらに世代をこえた関係づくりのツールとして活用するとともに、「中高生自らが大会や交流会を企画できる」というような事業に育てていきたいと思っています。